

「せたがや防災」まえがき

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、私たちが未だかつて経験したことの無い大震災でした。「マグニチュード9.0」という日本観測史上最大の地震が発生し、東北地方に甚大な被害をもたらしました。また、これまでに発生した様々な震災や風水害などからも、多くの教訓を得ることとなりました。一方、世田谷区においても、首都直下地震が今後30年の間に70%の確率で発生するとされており、災害に対する取り組みを進めていく必要があります。災害が発生した際には「自分の身は自分で守る」(自助)、「自分たちのまちは自分たちで守る」(共助)という心構えと行動が重要です。大災害において被害を最小限に食い止めるためには、日ごろから家庭や地域で災害への備えをし、災害発生時に適切な対応をする必要があります。この「せたがや防災」は、災害時にとるべき行動の手引きとなるように作成いたしました。今後の災害への備えとして、ご家庭や地域でご活用いただければ幸いです。

「せたがや防災」のテキスト版は、区ホームページ(ページID:612)に掲載しております。

編集・発行：世田谷区 危機管理部 災害対策課

☎ 5432-2262 FAX.5432-3014

世田谷区広報印刷物登録番号 No.1909 令和8年4月発行

今からできる10の備え

今、災害が起きたらどうなるか。災害は決して他人事ではありません。自分を、家族を守るために、災害に備えましょう。

1 自分の暮らしを把握する → P10へ



2 家族で話し合っておく → P12へ



3 住まいの点検をする

→ P12-13へ



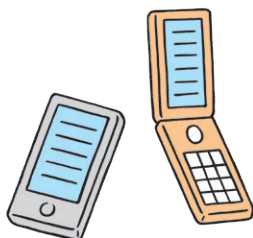
4 水や食料などを備える

→ P14-19へ



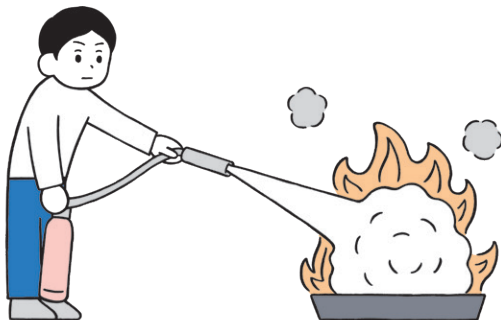
5 いざという時の 連絡方法を決めておく

→ P72-73へ



6 防災訓練などに参加する

→ P23へ



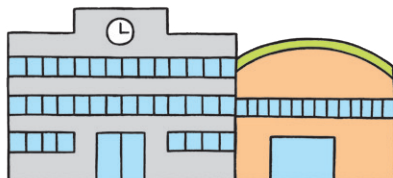
7 正しい情報収集方法を知る

→ P74へ



8 地域の避難先を確認しておく

→ P82-91へ



9 学校や勤務先にいた場合の行動を確認しておく

→ P32-34へ



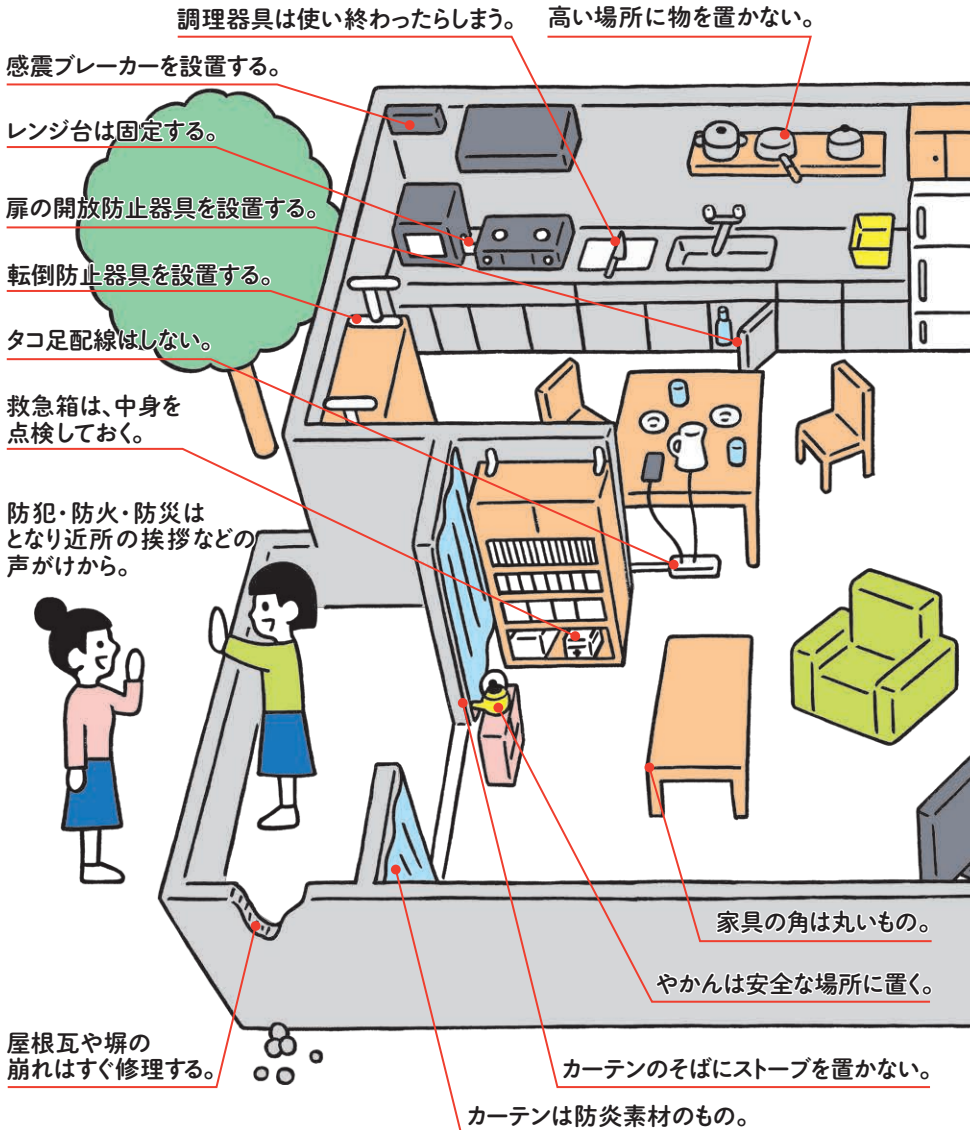
10 大雨や台風の時の行動を知る

→ P53-58へ



地震時、家具は凶器にも！ あなたの家は大丈夫？ 住まいの危険、ここをチェック！

住まいの耐震化、家具類の転倒・落下・移動防止、整理整頓を行うことは、「自分や家族の命」を守るために最も重要な、災害への備えの第一歩です。



扉の開放防止器具を設置する。

家具類・食器棚等は
倒れないように固定する。

懐中電灯、消火器を準備する。

風呂に水をはっておく。

せまい通路には
物を置かない。

重い物や
割れやすい物を
高い所に置かない。

棚は倒れても
ケガのない
置き方をする。

緊急連絡先は
すぐわかるように。

非常用持ち出し袋
を準備する。

ストッパー式
器具を設置する。

寝室にスリッパ、懐中電灯
などを用意する。

出入口付近の
スペースを確保する。

テレビは動かないように固定する。

窓などのガラスに
飛散防止フィルムを貼る。

